

第6回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成20年2月25日 午後6時30分
場 所 中央図書館 4階会議室
出席委員 毛利和弘委員 黒子恒夫委員 鈴木喜和子委員
日高正登委員 川西西部図書館長
事務局出席職員 河中館長 村田吉祥寺図書館長 山中管理係長
春日中央図書館図書担当係長 前田主事 小澤主事 船崎専門委員

議題及び内容

主な議題内容

(1) 議題

武蔵野市図書館の選書について

- ・ 都立図書館から東京都市町村立図書館長協議会に移譲された5万冊の図書について

その他

なお、主な意見等は以下のとおり

(まず事務局より共同利用図書館についての説明) 現在、東京都市町村立図書館長協議会で共同利用図書館構想について研究をしている。その研究において共同利用図書館の仕組みとして、多摩地域の各公立図書館で利用頻度の低くなった図書のうち、保存が必要と思われるものを共同で保存し、リクエストがあれば各公立図書館に届けることを考えている。共同利用図書館構想が持ち上がった背景として、平成13年都立図書館再編計画により都立図書館が14万冊の除籍を行ったこと、及び多摩地域公立図書館の除籍状況がある。その14万冊中の一般資料11万冊のうち5万冊を「東京都市町村立図書館長協議会」が引き取り、町田市の廃校舎に保管していた。平成17年12月に保管・作業場所を町田市から武蔵野市図書交流センターに移した。

館長協議会は、5万冊を活用するため、多摩地域のいずれかの公立図書館で資料を2冊保存する方針を定める。データ検索、資料の選別・仕分けを行った結果、5万冊のうち、多摩地域で1冊保存9,000冊、未所蔵15,000冊、合計24,000冊を武蔵野市預かりとし、残り26,000冊は武蔵野市に処分が任されている。本市では、ブックリサイクルを通し、市民へ本を提供することを行っている。

多摩地域公立図書館の蔵書収容能力としては、「三多摩地域公立図書館の除籍と書庫の調査」(平成14年度実施)で多摩地域各図書館書庫収容能力450万冊のうち400万冊が既に埋まっていることが確認されている。除籍の状況は平成17年のデータでは、多摩地域公立図書館全体の受入数77万冊、除籍数59万冊で除籍率77%となっている。除籍率100%超が6自治体あったこと、除籍される図書の判断が図書館に任されている現状では、除籍図

書に多摩地域で最後の1冊が含まれることが指摘されている。

・(委員) 除籍の基準を作るべきではないか。

・(委員) しかし人によって基準は異なる。形式からの判断はできても、内容からの判断は難しい。例えば法律の本も何版も版が重なっているものは新しいものだけ残してもいけばいいというものでもない。その時に変化したことを研究する場合もある。

頻繁に貸出された本の中には保存に耐えられないものもある。保存中の24,000冊も書架に並べるのは難しいと思うものもある。

・(委員) 昔のものを保存していく方法として、マイクロで撮り、CDに記録していくことも考えなければならないだろう。

運営方法として、直営や委託(各市町村とNPOとの契約、あるいは民間業者との契約)が考えられる。しかし直営は一部事務組合、特別地方公共団体の設立等の手間がかかるため、現実的ではない。

・(委員) 保管場所を確保するのは難しいし、予算の負担も大きい。大学では、倉庫管理会社に図書の管理と必要な図書があった場合に届けてもらうことを請け負わせているところもある。

管理のことを考えるとあまり遠隔な場所は現実的ではない。

・(委員) 現在大学図書館は新館建設をする場合に、自動書庫を活用し、収納数を増やしているようだ。

・(委員) 地域大学と連携をとっていくべきではないか。地域の公立図書館では大学の所蔵を確認のうえ専門書は廃棄していくなどの取り組みはどうだろうか。

・(委員) 西部図書館を書庫にしていくことはできないだろうか。

西部図書館は都営住宅、即ち東京都の施設の一部を借りている。西部図書館については、武蔵境駅前に建設予定の武蔵野プレイス(仮称)への移転・廃止という方針がある。その後の利用は市の方針を固めたうえで東京都と協議をする必要があると考えている。

・(委員) ブックリサイクルは今まで中央図書館のみで行っていたが、青空市や桜祭りでも行うのはどうか。

ブックリサイクルは図書館の前で行うことにより、図書館に来た人が利用してくれるケースも多いのではないかと考えている。20年度中に2、3回開催し、それでも余ったものは廃棄分を含めて処分を考えている。次回のブックリサイクルは5月を予定している。

次回 平成20年5月19日(月)午後6時30分から